

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2015 年 11 月 6 日

No.4

会社：現段階、今年の夏季手当並みで理解してほしい！

組合：「夏季手当並み」などとは、論外である。再考せよ！

— 2015年度 年末手当第4回交渉報告 —

中央本部は、本日10時から第4回年末手当交渉を行いました。本日は、第3回交渉の組合側の年末手当要求の根拠に対する現段階における会社の考え方が示されました。

- ①フェリー臨に対して協力して頂いたことや、ボトムアップによるコスト削減は一定程度の効果が出ている事に感謝とお礼を申し上げます。
- ②平成27年度中間決算は、昨年より良い成績を残すことができた。計画に対しても現段階△6700万円であり概ね計画に近い数字を残すことができています。
- ③経費については、線路使用料・動力費が昨年より下回っているが、まだ経費負担になっている。
- ④下期は、10月期改訂を行いコンテナ取扱収入を下方修正した。10月は対計画△1億円。11月は6日段階で対計画△3000万円と計画に届いていない。
- ⑤年度末に向けて収入動向も不透明で、年末手当については「今年の夏季手当並み」が現時点の考え方である。

これに対して中央本部は、現時点の会社の考え方に対して、以下の点を指摘しました。

- ①中間決算は19億円の経常利益を出したにも関わらず、夏季手当並みでは理解できない。「感謝」と「お礼」と言うのであれば、年末手当で還元すべきだ。
- ②中間決算は黒字、下半期に入ってから収入状況もほぼ計画通りである。しかし職場は、欠員、諸手当削減、新採抑制で疲弊している。これまでの「黒字化のためにガマンしてくれ」はもう通用しない。限界に近づいている。その一方で役員の報酬カットは、鉄道事業部門の黒字化に向けて、組合員にのみ我慢を強いる経営姿勢を改め、人への投資を実行せよ。
- ③また若年退職をはじめとした退職が止まらない。退職予備軍も存在する。これは経営姿勢に反対の意思表示である。人材育成は安全にも繋がるものであり、鉄道貨物輸送の根幹である。その意味からも還元すべきだ。
- ④したがって、会社が示した夏季手当並みの考え方は論外である。中間決算で出された結果を見える形で示すため、再考を求めます。

中央本部の指摘に対して会社は、

- ①計画に近い数字を出せたことには感謝している。しかし今年度鉄事△39億円は必達であり達成させるには夏季手当並みと言わざるを得ない。
- ②中期経営計画2016を達成するためにも理解してほしい。
- ③本日の交渉は、会社の考え方を示す場であるが、組合の主張は持ち帰り経営内部で議論する。

中央本部は、本日の会社の考え方は理解できず、到底受け入れることはできない。論外であることを改めて主張した上で中間決算の結果と我々の主張、そして会社が言う「感謝」と「お礼」は見える形で出すことが経営者の役割であり経営責任であることを通告し、交渉を終了しました。

組合員のみなさん！経営陣は、中間決算を増収増益で黒字達成したにも拘らず、「鉄道事業部門の黒字化達成」を理由に手当を抑制する無責任な対応を明確にしています。この間の職場から血や汗を流したことに対する報いを還元しようとしていません。このような理不尽な姿勢に対して中央本部は、引き続き労使協議を強化します。

次回、(回答指定日)は11月12日(木)です。